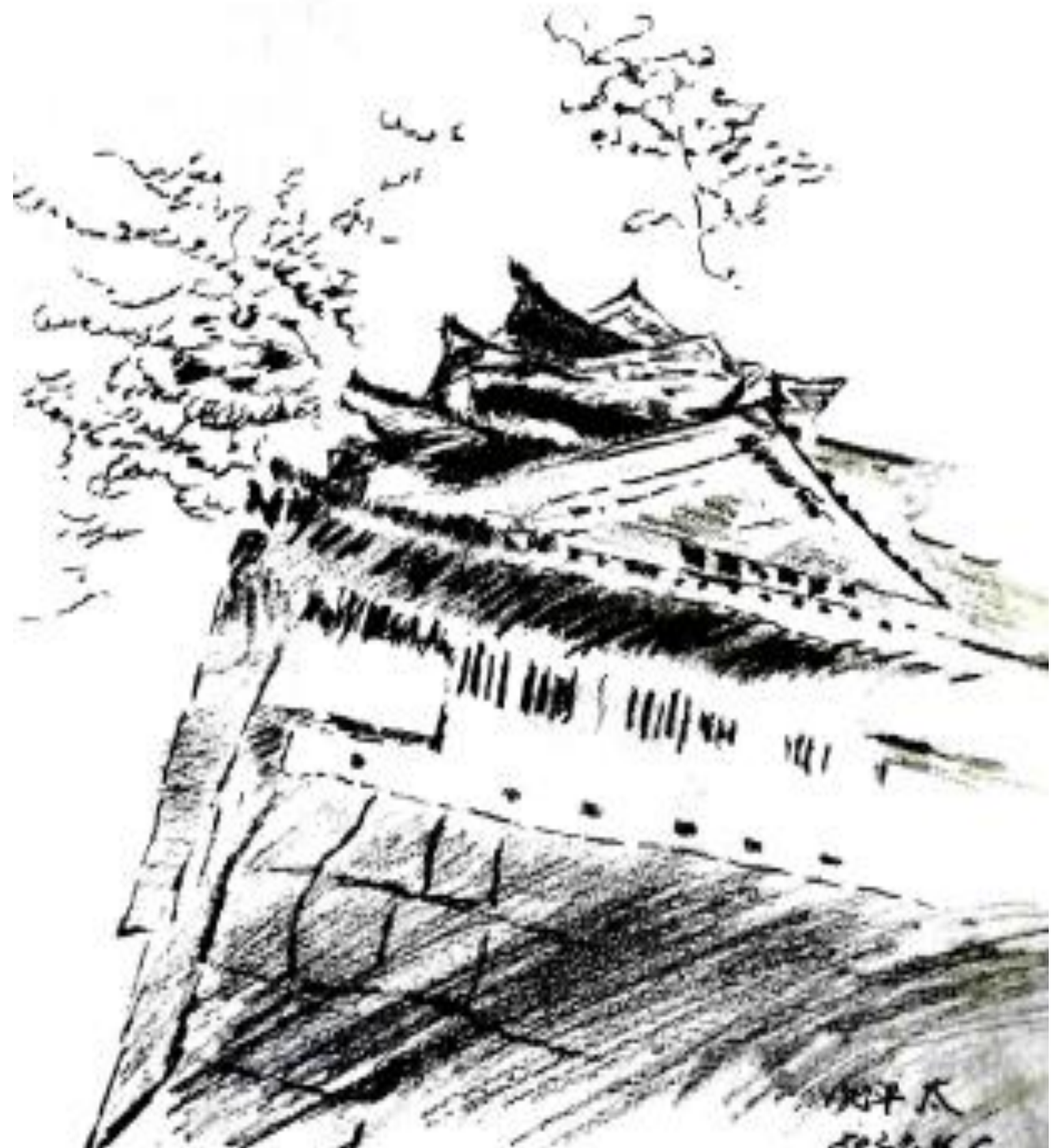


閣守天柳川

2024年1月号



第9回例会 2023年12月15日(金)

投句締切分

お題 「帰る」

真鍋心平太 選

できるなら翼あげたい拉致家族

帰るまで届くまで呼ぶ拉致の北

ガザの子らお手々つないでみな帰ろ

帰りたい里が浮かんでくる師走

タイミング悪く帰れぬ義理の通夜

手ぶらでいい帰って来いと言われてる

帰郷してマドンナに会うクラス会

持ち帰る希望を 両の手で掬う

卑弥呼まだ帰って来ない石舞台

ここからはひとりで帰る通り雨

(五客)

佳5 幸せと帰った椅子が濡れている

佳4 エサ求め山に帰らぬ不眠グマ

佳3 鶴彬北国帰り我もまた

佳2 五欲皆捨てて真摯に無に帰する

佳1 少年に帰る パトスを抱きながら

船木しげ子

山野寿之

浜脇蓬生

武智三成

加山勝久

信子

江崎紫峰

島根写太

小林満寿夫

直子

春田敏晴

勘兵衛

岩原一角

井澤壽峰

島根写太

(三才)

人 「じゃあここで」また会えるのに少し寂しい

地 おでん鍋待ちくたびれているらしい

天 世紀末鉄の鎖をルソー切り

軸 帰らないことが最善ドラが鳴る

波部珀兎

信子

青鬼堂一宇
真鍋心平太

(選評)

人の句

また会えるのがわかってるのなら
あつさりところで別ればいいのに少し寂しいと言っている。

これが所謂「未練」というもの。

このあと、別れてひとり食べるのが先月書いた「駅そば」だろう。

地の句

待ちくたびれているのはおでんではなく作者自身、

「らしい」もとりつくろいで、本当は「待ちくたびれている」のだ。
素直に待っていると言えない作者の奥ゆかしさが漂う句。

天の句

神は人間を善良、自由、平等、幸福なものとして創ったが、人は
自ら群れて社会を作り墮落し、奴隷を作り、悲惨を生み出した。

今日の金と権力に対する欲望にまみれた世界を見ていると、

この鎖を断ち切り「自然に帰れ」と言うルソーの教えが身に染みる。

「帰る」のお題でルソーを詠む発想が素晴らしい。

お題 「暖」

互選

1点

日溜まりで猫と競り合う日向ぼこ
暖冬に喜んではいられないな

温石か懐の暖太財布

電線に日向ぼつこの雀たち

猫抱いて寒いところを暖める

冬寒の朝の散歩で汗をかき

サンタクローズ待つてらうつらうつらして

暖冬予想が頼み空財布

2点

猫わたし猫でぬくぬく寝ています
ビールからぬる爛にする十二月

シチュー鍋悔し涙が溶けている

暖流の曲がりにも悩むマグロかな

温暖化と呼べぬ 地球沸騰化

温暖化いいえ地球の沸騰化

嫁ぎ来て母の糠漬け暖簾分け

友と分け合う一杯の珈琲

紅葉狩りペットボトルで暖を取る

白湯ごくりあなたの嘘を信じます

雪解けの水大根に陽を当てる

4点

人間が狂わせた四季温暖化

井澤壽峰

信子

青鬼堂一宇

浜脇蓬生

船木しげ子

江崎紫峰

小林満寿夫

岩原一角

波部珀兎

武智三成

直子

勘兵衛

島根写太

井澤壽峰

青鬼堂一宇

春田敏晴

浜脇蓬生

直子

小林満寿夫

山野寿之

4点 大晦日暖とる間なし年明け

温暖化それは地球のデモだろう

人間に暖かいもの愛と言う

小春日和ちよつと寄り道なんて言う

暖冬の師走優雅に飛ぶトンボ

6点 恋人になれば差が出る暖かさ

7点 生きづらいいけれども暖かいこの世

8点 暖冬で居眠り続く雪おんな

妻の乱コーヒーだけが暖かい

勘兵衛

船木しげ子

春田敏晴

信子

波部珀兎

真鍋心平太

真鍋心平太

山野寿之

江崎紫峰

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

今月の投句者（17名）

井澤壽峰

山野寿之

春田敏晴

江崎紫峰

勘兵衛

浜脇蓬生

加山勝久

岩原一角

島根写太

小林満寿夫

舟木しげ子

直子

波部珀兎

信子

武智三成

真鍋心平太

青鬼堂一宇

太字の方は初参加です。

今月投句者は17名でした。ありがとうございます。

シャンジュ・シュバリエ

真鍋心平太

シャンジュ・シュバリエとはフランス語でダンスパーティーの途中でパートナーを変えること。ダンスパーティーなどには縁の薄い日本語にはない言葉であるが、「ねむれ巴里」という自伝的小説の中で、金子光晴は人生の上においては幾たびかシャンジュ・シュバリエがあるのだと書き記している。

巴里は白人の歴史が完成させた物質世界の征服で組上げた優しくもお洒落な文明都市であるが、男女の仲と同じに惚れている間は花の都であるが嫌気がさしたら売色の巷であり目先の流行だけを追うだけの浅はかな見かけだけの偽善の街に面変わりする。ねむれ巴里は金子光晴がそれに気づくまでの二度の春夏秋冬の物語である。

貧しさのどん底での巴里紀行文なのだが、生きていくために余技である絵を描いて売ったり、詐欺まがいな金を借りたり、ありとあらゆることをしながら、パリに住む人々とそこを通り過ぎて行く日本人とのシャンジュ・シュバリエの物語を描いている。

今日のように華々しく巴里を訪れる日本人ではなく、

そんなものにかかわる機縁も才能もなく、日本を追われて疎外者の意識で生きるほかになく巴里に来ている日本人達の悲しい様子や心のありようが哀惜を込めた文章で綴られていて、今から百年近く前に遠い巴里の街にこんな日本人達が暮らしていたのだと思うと何やら古い夢の世界のようです。いつまでも余韻が残る。

この国では

寂しさだけがいつも新鮮だ

この寂しさの中から人生のほろ甘さをしがみとり
それをよりどころにして僕は詩を書いた。

(金子光晴 「寂しさの歌」)

そんなねむれ巴里に思いを馳せながら巻末の絵を描いてみた。金子光晴もこんな凱旋門の風景を見ただろうか。

初の短句掲載！ 番傘一万句集

11月4日に「類題別番傘一万句集 第四集」が出たこと。武智三成さんよりお便りを頂いた。

この書籍であるがISBNを取得していないので、特殊な書籍であり、アマゾンにも出てこない。今日の川柳の在りようがこんなところにも出ているようである。

ともあれ、一応川柳界の仲間内では知られた句集であり、三成さんにとって嬉しかったことは、初めて「短句」が掲載されたということである。

三成さんの掲載句13句（うち短句5句）を以下に掲載する。

こうして並べてみると

五七五の句を大刀とするならば、短句は小太刀、脇差と言え、ぴたりと決まった時の短句の切れ味が大刀よりも優れていることが一目瞭然で分かる。

新年よりの短句投句のご参考になれば幸いである。

分類

句

自然 発車する四月の顔は美しい

行事 来年へ予熱の残る盆踊り

美術 フェルメールの目みんな見通す

趣味 読書もおいてペンキ塗りする

人物 独り暮らしに間が長くなる

人間 また絶滅種作る人間

生きる 人情に触れると背筋のびてくる

長生き 長生きの秘訣を喜寿が聞いている

椿 一段と句が近づくやぶ椿

信号 渡りきる杖を見ている信号機

ハイウエー 序壁のように高速村を断つ

橋 橋げたは黙って時代受けている

温暖化 他人事でない氷河崩れる

第10回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「松」 平 川柳 選
「1月」 立蔵 信子 選
「積む」 互選
「雑詠」 真鍋心平太 選
「春」(短句) 武智 三成 選
(投句 各 2 句)

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は
下記 URL から可能です。

http://excellan.kir.jp/ten_reikai/web_siyu_menu.php

投句、互選投票は会員登録が必要です。

会員登録は下記 URL より

http://excellan.kir.jp/ten_reikai/id_make.php

投句開始 2024年1月9日(火) から
投句締切 2024年1月15日(月) まで
互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。
1月16日(火) ~ 1月19日(金)
披講発表 1月20日(土)から随時閲覧可能になります。

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録



パステル画 心平太

(クリックすると大きくなります。)

二〇二三年一月二十五日発行

ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)

(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

Tel・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446